

はじめに

寒川セツルと暮らした学生たち

子安 潤（中部大学）

読者は、学生時代をどう通過しただろうか。どんな色彩の時間であっただろうか。それはどんな意味を今の暮らし方に与えているだろうか。

本書は、寒川セツルメントという大学のサークル史である。そこに集まった者たちは、思い出や哀惜の対象として読んでよい。しかし、異なる時と場所を生きた人には、セツラーの気分ともの見方を同時代を捉え直し再配置するように読むことをすすめたい。（一部抜粋）